



フィリピンからの旅行者 自国では馴染まない雪を満喫  
2023年12月21日 歌オブナ林にて

# B2

## ニュースレター

2023/12/31

～1月の観光協会主催事業～  
ブナの巨木スノーシューウォーク

### 次世代と育む地域観光

12月の初旬に白井川中学校で総合学習発表会が開催されました。全生徒5名の発表者のうち2名の生徒さんが黒松内の観光をテーマに調査研究をまとめ、発表を行いました。9月に白井川中に出向き、生徒さんに観光協会の取り組みに関する講話をさせてもらいましたが、後日2名の生徒さんから個別の聞き取りをしたいと申し込みがありました。聞き取りの際生徒さんから「朱太川ではどんな遊びができるか?」「黒松内の観光でどのくらい儲かっているのか?」「職員数は足りているか?」など黒松内の観光について踏み込んだ質問がありました。講話で生徒さんにも伝えましたが「その土地の光が当たるところを観る、体感することが観光であり、どんな分野でも観光資源になるのではないかと、黒松内にもキラリと光る資源がまだまだ沢山あるかも」といったお話をしました。

11月に観光の勉強会に参加した際、他地域では観光教育について何か取り組みがあるか話題をふってみました。関係者からは、地域内でも観光に対する教育プログラムの時間を設けているようで、過疎化が進む地域で観光を取り入れたまちづくりの重要性について考える時間や体験する時間が増えてほしいという声を聞きました。

SDGs(持続可能な開発目標)が重視される今日、自然環境へのダメージ、騒音、渋滞など観光のマスツーリズム(大衆観光)を回避する方策としてサステナブルツーリズム(持続可能な観光)の推進を目指す時代に入っています。自然環境の保全に注力してきた黒松内だからこそ、次世代への啓蒙を目的とした観光教育の必要性を考える良いきっかけになった白井川での発表会でした。観光分野に興味をもっていたいただいた生徒のみなさん、ありがとうございました。

事務局長 本間 崇文

#### フットパスクラブ通信 Vol.16

10月に行われた全道フットパスの集いinニセコについて主催のニセコフットパス協会会長、工藤達人さんに寄稿していただきました。  
ページ2

#### じり通信 No.30 文:山本竜也

2023年黒松内の一大ニュースといえばプロ野球のドラフトでした。来シーズンは注目のシーズンとなりますね。  
ページ3

#### 黒松内文学さんぽ 一寄り道一

全4回のシリーズで黒松内ゆかりの文学作品や作家を町内在住の歴史研究者・北村英芳さんが紹介します。  
ページ3

#### 【美一】Beech Girls vol.10

今回は黒松内の玄関口、道の駅くろまつないで働くフレッシュなBeech Girlsを二人も取材しました。お買い物ごら会いにしてみてください。  
ページ4

#### <<協会主催・協カイベント>>

#### さいとう所長と歌オの 巨木ブナ群を巡る

1月27日(土)  
ウィンターシーズン新企画第一弾。



観光交流ネットワークミーティング  
2月中旬(予定)  
毎年冬期に2回開催している観光交流ネットワークミーティング。

## 第11回観光交流ネットワークミーティング

## 「Leave No Trace アウェアネスワークショップ」を終えて

12月18日に開催した観光交流ネットワークミーティングでは、持続可能な観光を考える勉強会として、米国で開発されたアウトドア活動を楽しむための行動基準‘Leave No Trace’の環境論理プログラムのワークショップを開催しました。講師には、伊達市在住で洞爺湖有珠山ジオパーク火山マイスターの江川理恵さんを招聘しましたが、江川さんがフェイスブックで研修会後の感想を書き込んでいますのでご紹介いたします。

12月19日 江川理恵さん FBより抜粋

黒松内町はものすごい雪です。

とても寒いですが町の皆様の温かさに迎えられいつものようにホッと安心して切ってしまった私でした。「観光交流ネットワークミーティング ～LNT アウェアネスワークショップ～」に呼んでいただき、45分間 Leave No Trace(LNT)のさわりの部分をお話しさせていただきました。

ご依頼をいただいてから慌てて学び直、LNT代表のバクさんに何度もご相談し、やっと辿り着けたのが昨日でした。LNTインストラクターとして伝えるために費やした時間と同じくインストラクター仲間、黒松内観光協会の本間さんのワークショップと同じくインストラクター仲間、ぶなの森自然学校の大類さんのワークショップを通して黒松内町の皆様との時間共有がとても温かく大切な時間となりました。

今回のワークショップを体験された皆様がLNTに1人でも関心を持ち、実践に繋げていただけたら嬉しいです。今回、このような機会をいただいたことに心より感謝いたします。

お陰様で誰よりも私自身が学びを深めることができました。

泊めていただきましたYUPIさんも最高です。黒松内町大好き！



## フットパスクラブ通信 Vol.16

## 「第32回全道フットパスの集い in ニセコ」について

黒松内フットパスクラブ事務局の岡本です。10月14日(土)～15日(日)に全道フットパスの集い in ニセコが行われました。黒松内フットパスクラブは1日目に2名、2日目に8名が参加し紅葉しているニセコを楽しみました。今回はフットパスコースにカヌーを取り入れたニセコフットパス協会会長の工藤達人さんにその想いを綴っていただきました。



フットパスの活動はここ数年コロナ禍の影響もあろうが、全道的に見て停滞気味のように感じる。そのような状況を改善するために7年ぶりにニセコで全道大会を実施することにした。

どの程度の参加が見込まれるか読めない中、2日間で120名の参加があったことは嬉しい限りである。中でもカヌーとウォークを組み合わせた尻別川コースは定員をはるかに超えてはいたが断らず受けることにした。ほかのコースもまずまずの参加が見込まれたのはニセコの滞在客や町内外の一般参加者が多かったことからもうかがえた。

「今度の開催はいつですか、次回が楽しみ」と期待を寄せるコメントが聞かれ、今後のフットパスイベントは数だけでなく内容の充実や夏場の開催など考慮しなければと感じた。

多様化する時代においても人は非日常を楽しみたいのです。歩くストーリー性を持たせるため今回はカヌーで川を歩く内容にした。川の流れに身を寄せるカヌーは低い目線で視野が広がり水鳥のライフスタイルや鱒のサイズがいやおうなしに視野に飛び込んでくる。まさに発見・感動のシーン。

「こんな楽しいことは初めて、娘を誘えばよかった」と妙齢のご婦人の言葉が印象に残った。

ニセコエリアの魅力をフットパスに絡ませ非日常をどう提供するか、主役である参加者が満足できるような仕掛けを考えプランニングをすることがフットパスファンを増やすことになるのだろう。(文・工藤 達人)



## じり通信 No.30 「ドラフト会議 2 週間後の広島で」 文：山本竜也

11月初旬、広島市を訪れた。原爆の取材が目的なのだが、もうひとつ、楽しみがあった。広島風お好み焼きである。大阪出身の私が知るお好み焼きとは、まったく違うらしい。クレープのように広げた生地の上にキャベツやモヤシ、焼きそば、豚肉、卵などを積み重ねて焼くと聞き、一度食べてみたいものだと思っていた。平和記念資料館での用事を済ませ、広島市電に乗り、江波停留場で降りる。「お好み焼き なごみ」という店が見えた。ここでいいか。暖簾をくぐる。客はいない。開店したばかりのようだ。「はじめて食べるんですが」とおかみさんに伝えると、鉄板の真ん前の席を勧められる。

「どこから?」「北海道です」「うちの息子も北海道なんよ」。世間話をするうち、焼き上がる。箸は出てこない。「ヘラで食べんさい」と言う。端の方にヘラを突き立てて、一口サイズに切り分けては、口に入れる。美味しい。店内をなんとなく見回す。広島カープのポスターやグッズがいくつも見える。2週間前のドラフト会議を思い出した。「カープに指名された滝田一希さんって知ってます? 私が世話になっている町の出身なんです」「えー! 知っちゃるよ。お母さんが亡くなられて、6人きょうだいで苦労されたんよね。エスコンフィールドで掃除のバイトしとったんでしょ。活躍してほしいねえ」。

なんと、私よりはるかに詳しいではないか。こんな熱心なファンをもう広島に獲得している滝田さん。カープともども、私も注目せねばなるまい。



## 黒松内文学さんぽ - 寄り道するので残りあと1歩 - 文：北村 英芳

北海道新幹線札幌延伸に伴い函館本線の山線ルート（長万部～小樽間）が廃線と決り、何年か先には黒松内駅もいずれ無くなる運命です。今回はこの黒松内駅と洞爺湖銘菓「わかさいも」の関わりについて寄り道します。

昭和初期に「寿都外三郡大観（若狭音之助 1930年）」という本が寿都で発行されました。寿都郡、磯谷郡、歌棄郡、島牧郡の名士達を紹介した内容で、黒松内村からは雑貨商を営み、和菓子も作っていた若狭亀吉が紹介されています。『・氏は、黒松内村に住居を定め大正五年黒松内館設立と同時に管理者になり今日に至る・・・(中略)・・・長男函寿君は現に黒松内駅構内営業者として他店の追従を許さる名物まん頭アイスクリームの呼び売りをなし明盛高し・・・』名物まん頭とは、洞爺湖町のわかさいも本舗が販売する「わかさいも」の前身となるお菓子のことです。函寿（はこす）は、さつま芋の焼き芋を模したお菓子を「やきいも」と称し黒松内駅構内で大正12年に販売しました。とても人気が出たそうです。しかし、昭和3年に室蘭本線が開通したことにより売り上げがガタ落ちとなってしまいます。そこで函寿は、観光地として注目され始めた洞爺湖へ移り住み新たに店を構えます。同時に黒松内駅で売っていたお菓子「やきいも」を、名字の若狭を入れた「わかさいも」へと名称を変え洞爺湖温泉街で売り出しました。昭和5年のことです。



若狭亀吉「寿都外三郡大観」より

## 【美一】 Beech Girls vol.10

道の駅くろまつないのフレッシュな職員2名を取材しました！

Q 子どもの頃はどんな子どもでしたか？

A 瀬：やたら大人しい子どもでした。本を読むのが好きでずっと読んでいました。

佐：今と変わらないです！フレッシュで、明るい！！  
鬼ごっことか公園で遊ぶとかアクティブな子ども。

Q 黒松内のおすすめスポットはどこですか？

A 瀬：マナヴェール。家からも近いしこれから通いたいです。

佐：そば屋この花さん。近くに住んでるのでお世話になってます！  
冬のおすすめメニューは期間限定のカレー南蛮です。

Q 旅行で行ってみたいところは？

A 瀬：8月に車の免許をとったばかりで練習中 🍀

函館、旭川とかに頑張ってドライブに行ってみたい。

佐：アニメの聖地巡礼で横浜に行きたいです。

Q 出身地（島牧村 / 室蘭市）のおすすめの場所を教えてください。

A 瀬：島牧村のおすすめスポットは「かりんぱ」という喫茶店。

おすすめは大きいワンプレートででてくるハンバーグとチョコバナナパフェ。

佐：室蘭のおすすめスポットは「おらが村」というお好み焼・もんじゃ焼き屋さん。肉チーズがおすすめ。  
あとは測量山。夜はライトアップされたりして、景色がきれいです。

Q 黒松内に住んでみて感じたことは？

A 瀬：ご近所付き合いがすごい！みんなが知り合い。公共交通機関が少ないから逆にドライブが楽しいです。

佐：おじいちゃんの呑み友とか顔見知りの人がいっぱいいて老若男女とわずの友達が増えました。

買い物は不便です。本屋さんが無いのが…。

と~ってもフレッシュな20代のお二人。お二人の世代じゃないような気もしますが「月に変わっておしおきよ！」ポーズを仲良くキメてくれました。取材した澤田がちょうど世代なので気を使ってくれたのでしょうか？素晴らしい気づかいに道の駅を訪れる観光客の方々も安心ですね。（事務局・澤田）



せとがわ しょうこ 瀬戸川 柁子	お名前	さとう ちひろ 佐藤 千尋
2月3日	誕生日	11月26日
23歳	年齢	20歳
B型	血液型	O型
島牧村	出身地	黒松内生まれ 4歳から室蘭市
父、母、姉2人	家族構成	父、母、弟2人
R5年8月~	黒松内歴	R4年10月~

## ウィンターシーズン新企画始めます

齋藤所長と一緒に森に行ける唯一の貴重なイベントです。

黒松内町の傾向としてウィンターシーズンは観光客が激減します。観光協会としては「冬の黒松内も良いですよ！」とアピールしたく、新企画を考えました。その名も「北限のブナ研究所・さいとう所長と行く 黒松内ブナ巡り&チョット雪遊び」。来年1月から3月まで全4回、スノーシューまたはかんじきを履いて、町ブナセンター元学芸員で現北限のブナ研究所の齋藤均所長にガイドしていただき、黒松内のブナを巡ります。参加募集は各イベントの約1ヵ月前からSNSなどで開始いたします。定員を設けますのでお申込みの際はお早めに！

※参加費は各4,500円（消費税、保険料、ガイド料込）

日程	コース名	集合解散時間	備考
① 1/27 (土)	歌才の巨木ブナ群を巡る	10:00~13:00	去年発見したNo.2巨木ブナ
② 2/11 (日)	ウラ歌才ブナ林歩き&長大尻スベリ	10:00~13:00	冬限定裏道散策&50m尻スベリ
③ 2/24 (土)	満月のブナ林散歩	16:30~20:30	月明かりの幻想的なブナ林散策
④ 3/9 (土)	丸山の巨木ブナ散策	9:30~15:30	No.1ロングコース・ブナ林を堪能

森歩きは冬が一番楽しいよ  
厳しい冬を生き抜く森の生物  
たちの戦略を一緒に見に行こう

北限のブナ研究所  
齋藤 均 所長

観光協会 HP にて「B2」バックナンバーがご覧になれます。www.bunatatourism.com

印刷版をご希望の方は観光協会までご連絡下さい。

発行人：一社) 黒松内町観光協会 発行日：2023年12月31日 次回発行予定は3月末

TEL：0136-72-3597 FAX:0136-75-7070 MAIL：bunatatourism@gmail.com